

気象学概説 実習1 太陽放射と光電池

1. 目的

- ・太陽放射に関する理解を深める。
- ・光電池の特性に関する理解を深める。
- ・電流計（検流計）や電圧計の使い方など、電気回路の取り扱いに慣れる。
- ・エネルギー資源について考えるきっかけをつかむ。

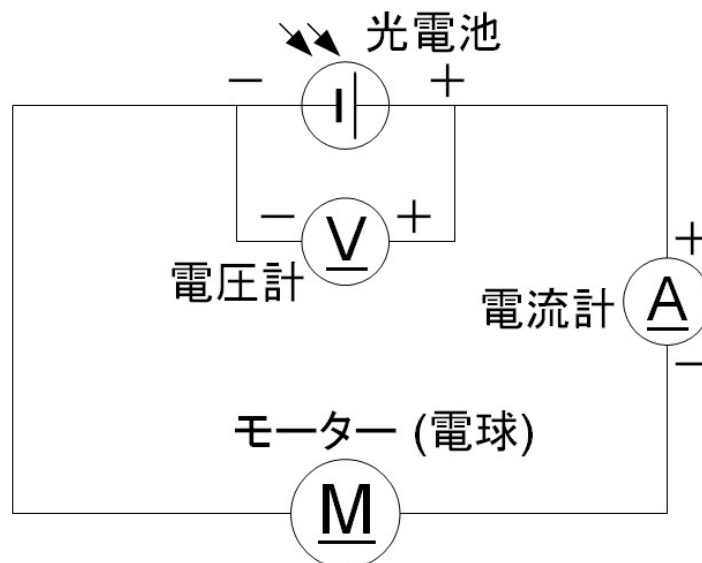
→ 小学校4年生の理科で、光電池を扱う。豆電球やモーターなどを接続し、簡易検流計（電流計）も使用する。

2. 用意するもの

- ・各自で持参するもの
筆記用具（ペン、鉛筆、消しゴム、下敷き）、時計（腕時計など）、電卓
- ・班に1個ずつ用意されているもの
日射計、光電池、電圧計、電流計、調整用ドライバ（全体で1セット）、モーター、羽根、豆電球（ソケットつき）、リード線（黒、赤、各3本）

3. 方法

- ・回路の構成



注意：

- ・ショート（短絡）させない。
 - ・電流計は直列に、電圧計は並列につなぐ。
 - ・極性（プラス、マイナス）を間違えない。
 - ・最初は、もっとも大きいレンジで測定する。
- ・実験の手順
 - ①日射計で日射強度を測定する。単位はBtuではなく W/m^2 にセットする（表示部の右下部分を確認する）。Rボタンでレンジを切り替える。
 - ②モーターをつないだ場合と、豆電球をつないだ場合で、光電池の出力電圧と電流を測定する。
 - ③電力を計算し、光電池の発電効率を評価する。

気象学概説 実習1 太陽放射と光電池 記録用紙

班：A・B・C・D・E・F (該当するものに○)

学生番号：_____ 氏名：_____

共同実験者（姓のみ）：_____

測定1

日時	年	月	日	時	分
場所					
天気				雲量	
直達日射の有無	有 ・ 無			日射強度	W/m^2
光電池の面積	35.7		cm^2	負荷の種類	モーター
電圧	V			電流	A
電力					W
発電効率					%
メモ					

測定2

日時	年	月	日	時	分
場所					
天気				雲量	
直達日射の有無	有 ・ 無			日射強度	W/m^2
光電池の面積	35.7		cm^2	負荷の種類	豆電球
電圧	V			電流	A
電力					W
発電効率					%
メモ					